

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)平塚市浅間町用地 賃貸建物新築工事	階数	地上1F
建設地	平塚市浅間町150番114	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	240 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,100 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2018年8月2日
敷地面積	7,996 m ²	作成者	株式会社東急設計コンサルタント
建築面積	3,178 m ²	確認日	2018年8月2日
延床面積	2,988 m ²	確認者	株式会社東急設計コンサルタント

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★☆☆☆ B: ★☆☆☆☆ C: ★☆☆☆☆</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.9**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 2.8	Q2のスコア = 3.1	Q3のスコア = 2.8
音環境: 3.0, 2.1, 3.0, 3.4	機能性: 2.9, 3.1, 3.6	生物環境: 3.0, 3.0, 2.5
温熱環境: 3.0, 3.4	耐久性・信頼性: 3.1, 3.6	まちなみ・景観: 3.0, 2.5
光・視環境: 3.0, 3.4	対応性・更新性: 3.1, 3.6	地域性・アメニティ: 3.0, 2.5
空気質環境: 3.0, 3.4		

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 2.8**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 2.9	LR2のスコア = 2.5	LR3のスコア = 3.2
3.1, 3.0, 2.8, 3.0	2.2, 2.4, 3.0	3.5, 3.0, 3.1
建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化効率的運用	水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避	地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> CASBEE建築(新築)2016年度版による評価結果である。 		
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 断熱性能のよい外皮仕様を採用している。 ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 天井高を高く確保することで、室内の快適性の向上に配慮している。 耐用年数の長い外装材・内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に無し
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に無し 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。 駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される